

「全国定住自立圏構想推進シンポジウムin長岡」の開催（結果概要）

開催日時：平成28年1月28日(木)13:30～17:10 開催場所：ホテルニューオータニ長岡 NCホール 参加者数：236人

基調講演：早稲田大学教授 稲継 裕昭 氏 「定住自立圏形成によるマネジメント能力の強化」

定住自立圏は他の自治体や民間組織について学ぶ絶好の機会である。職員の相互派遣あるいは圏域内の日常的な交流が人を育てる鍵となり、公会計制度をはじめとした制度や書式等を圏域で統一することにより、お互いに学び合い・助け合いが可能となる。また、地域おこし協力隊など地域民間人財の協働や域外との連結が可能な創造的人材の定住・交流促進も重要である。人事交流・人と人のふれあい・連携による圏域マネジメント能力の強化が、圏域づくり・まちづくりに欠かせない。



取組事例報告：長岡市長 森 民夫 氏 「ふるさとで暮らし続ける～長岡地域定住自立圏の取り組み～」

長岡地域定住自立圏では、休日夜間救急医療、バイオガス発電、公共施設の相互利用などに圏域一体となって取り組んでいる。中越地震の教訓を活かした中越防災安全大学の事業は、市民防災力の強化のため民間の中に防災士を育てる取組であるが、長岡市単独で実施していたものが、定住自立圏をきっかけに圏域全体に広がり、卒業生は500名を越え、現在では圏域を越えた活動に発展している。定住自立圏は、行政の枠組みを越え、住民の生活や経済活動を支えるようになったとき、初めて意味のあるものになると感じている。



パネルディスカッション：「定住につながる地域の魅力づくり」

【パネリスト】（五十音順）

○稲垣 文彦 氏 公益社団法人中越防災安全推進機構 震災アーカイブス・メモリアルセンター長

地域が差別化・商品化を図るには、自ら「地域磨き」あるいは「価値を見つける物差し探し」を継続すること、行政はその戦略を立てることが重要。地域と行政をつなぐには、民間組織を活用することが効果的であり、その結果、定住や6次産業化へとつながっていく。

○佐藤 一絵 氏 農林水産省経営局就農・女性課 女性活躍推進室長

就農の多様化が進む中、農水省では、女性の就農支援制度を増やしているところ。ただ、日本社会では女性は結婚、出産などライフプロセスで選択を迫られる部分が多いため、それらを克服できる環境づくりに行政が携わることが効果的。

○澤田 雅浩 氏 長岡造形大学准教授

地域の新しい可能性を引き出すためには、前例にとらわれず規制緩和をして、実験的にやってみることが必要。他市町村や民間組織との連携もその1つであり、定住自立圏構想はそのきっかけとなり得る枠組みである。

○須永 珠代 氏 株式会社トラストバンク 代表取締役社長

地域はふるさと納税を通じて、資源を発掘し、キュレーションし、PRする力をつけてきている。小さな成功を積み重ねることで、大きな市場が生まれ、大きな情熱が生まれる。このことが、地域のやる気につながり、いろいろな知恵を引き出せるようになる。

○高橋 菜里 氏 NPO法人プロジェクト88理事長

地域に外から入ってきた人間が受け入れてもらうためには、相当な時間が必要。地元で活躍している企業に相談し、連携を図って、徐々に理解を深めてもらうことが、地域での活躍につながる。

○森 民夫 氏 長岡市長

もともと地域にはいろいろな魅力があるということに気づくことが大切。自分の価値観の物差しを変えれば、思いがけないものが魅力になるということを実感するだけで、世界が広がる。

【コメンテーター】

○稲継 裕昭 早稲田大学教授

【コーディネーター】

○黒瀬 敏文 総務省地域自立応援課長

